

# 私たちの町の遺跡 北岡横穴墓

## ■「1300年前の家族墓 北岡横穴墓」

北岡神社の始まりは、承平3年(933)に二本木3丁目(古府中)に京都の祇園社(ぎおんしゃ)を建てたもので、その後、天元2年(979)に花岡山上にうつし、正保4年(1647)に現在の地にうつったそうです。花岡山は、古くは朝日山や勢高山と呼ばれていましたが、神社移築後は祇園山となり、花岡山と呼ばれるようになったのは明治に入ってからです。

北岡神社の南側崖面には、古墳時代の横穴墓がたくさんありました。横穴墓は、1mほどの大きさの入口の奥に3~5mの部屋が掘られ、何体もの人骨が入っています。一度に多くの人を埋葬したのではなく、1体ずつ、お供えやお祭りをしながら埋葬していますので、家族の墓と考えられています。防空壕のようにも見えますが、実際に防空壕として利用したものもあります。ここでは明治13年と19年に多くの出土品があったと記録されていますが、このたびの新幹線開通を契機とする県道拡幅工事でも15基の横穴墓が発掘調査され、多くの発見がありました。

神社境内でも、明治24年の鉄道開通工事に伴って社殿改築工事があり、石室をもつ古墳が発見されて、鏡などが見つかっています。

(熊本市文化財課主任文化財保護主事 網田龍生氏より)

写真：県道工事で発掘調査中の横穴墓群

